

学校だより



稲荷台

令和6年1月9日

1月号

横浜市立稲荷台小学校

今年のカレンダー

校長 中山 正之

令和6年を迎えました。1月1日に能登半島で地震が発生し、多くの方々が被害に遭われました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早く落ち着いた生活を取り戻せることを願います。

今回、大災害がいつ、どこで発生してもおかしくないことを強く認識する機会となりました。それに伴い、防災への意識の向上や非常時の行動確認の重要性も改めて認識させられました。学校、家庭、地域それぞれの立場で考え続けていくことが重要だと思います。

さて、新年を迎え、校長室のカレンダーを令和6年のものに掛け替えました。本校のすべてのクラスに掛けているカレンダーと同じものです。毎月の暦をめぐってみると今年はどういう年で、2月29日まであることに気が付きました。4年に一度やってくるうるう年は、オリンピック・パラリンピックの開催年と重なっています。今年フランスのパリで7月から9月にかけて開催されます。

他にも何かあるだろうかと眺めていると、今度は「甲辰」という言葉を見つけました。ご存知の通り、今年は十二支で数えると辰（たつ）年です。「甲」が気になったので少し調べてみました。よく「干支（えと）」と言いますが、これは元々「十干十二支（じっかんじゅうにし）」という時間や方位などの数え方から来ており、「十干」とは「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・申・壬・癸」の10種類で数えるのだそうです。（読み方は下をご参照ください）この十干と十二支を組み合わせると60年で一周するのが本来の干支で、この数え方によると今年「甲辰（きのえたつ）」になるそうです。ただ最近、十干の方はあまり使われないようです。ちなみに前の「甲辰」は1964年（昭和39年）で、この年に生まれた方は60年の暦が一回りするので「還暦（かんれき）」を迎えることとなります。十二支だけの数え方では12年で一周ですが、十干を含めると随分と長い一周です。また、干支は年だけでなく、月や日も数えられるようです。例えば「令和6年1月1日」は、「甲辰（きのえたつ）の年、丙寅（ひのえとら）の月、甲子（きのえね）の日」となるそうです。なじみのない漢字が多く、読み方も難しいのですが、数え方を覚えられればこの表し方も意外に面白いかもしれません。

いつも何となく眺めていたカレンダーですが、あれこれと考えたり調べたりし始めると、暦というのはとても興味深いもので、昔の人々の経験と知恵が積み重なって作られていることが、改めてよく分かりました。今年は何日を確認するだけでなく、毎日がどんな日なのかをよく見ていきたいと思えます。

本年もどうぞよろしく願っています。

※十干の読み方

	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	申	壬	癸
音	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き
訓	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと